

# AIで描く未来 若者たちと創る未来

vol.  
12

しんどさんこばなし



一步先の、新どさんこを  
新どさんこ研究所  
山岸所長が訪れる



新どさんこ

#12

中島秀之さん

2018年4月より札幌市立大学 理事長 学長。  
1978年MIT人工知能研究所に留学、1983年通商産  
業省電子技術総合研究所入所。2001年産業技術総合研究  
所サイバーアシスト研究センター長を経て、2004年公立  
はこだて未来大学学長、東大先端人工知能学教育寄付講座特  
任教授を経て札幌へ。40年間AIの研究を続けている。

AIは、どさんこの  
敵か味方か!?

赤や黄の木立に囲まれた2つのタワーがある。札幌市立大学芸術の森キャンパスは、市内中心部より一足早い紅葉を迎えていた。タワーと本棟を結ぶ約140mのスカイウェイを歩いた先に同校の学長で日本のAI研究の第一人者、中島秀之さんがいる。

「北海道は人口過密地域じゃないし、食べ物もおいしいし、良いところだよ」と話す中島さんは、高校時代から「知能」に興味を持ち、大学時代にコンピュータにのめりこんで以来、40年間AIの研究を続けている。

「よくAIは仕事を奪いますが、とか悪いことをしませんか、とか聞かれるけど、AIのプログラムを作っているのは人間であって、AIに目的を与えているのは人間。あくまで便利な道具、使い方次第です」

新しいモノゴトは、

”人”からしか生まれない

遠隔地の医療問題、農業の担い手不足など、北海道ならではの地域課題も、AIで解決できることは少なくない。

だからこそAIやITの知識を持つ人材が北海道には必要。便利な道具だからこそ、その使い方を学び、そしてその知識をアップデートし続ける。場をつくってあげたらと考えている。

「学生には専攻に関係なく、ITリテラシーを学んでほしい」と中島さん。ITへの理解があることは、それぞれの専門分野を進歩させるうえで欠かせない知識であると考えているからだ。さらに中島さんは、若者にこうエールを送る。

「若い人には“あつたらいいな!”を創るチャレンジをどんどんしてほしい。失敗したって構わない。若い人たちだからこそ、面白いことや突拍子もないアイデアを出せるはず。AIも失敗をインプットしないと、正しい判断にはたどり着かないしね」

北海道の地方に自動運転タクシーが増え、移動が便利になることを期待している

北海道民は**37.0%**  
北海道民の旅行・交通に関する意識はこちら

<http://shindoken.com>

新ど研

しんどさんこ研究所

インタビュー

新どさんこ研究所 所長

山岸 浩之

Hiroyuki Yamagishi

2014年北海道博報堂入社。

コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。

